

安全水泳に関する大学生の意識と認識

鳴門教育大学院 生活健康系コース
(保健体育)
坂本 貴洋

研究背景

日本という国は国土を海に囲まれており、夏になると多くの人が海や川で泳ぐなど、アウトドアを楽しめる環境にある。しかし、誰もが自由に楽しめる自然水域は常に危険と隣り合わせであることを理解しておかなければならない。

学校水泳が担う役割は大きい

研究目的

今日までの学校水泳は、より長く泳ぐ事に重点が置かれ、自己保全能力への具体的な課題が示されていない。

現行の学習指導要領の下で学校水泳教育を受けてきた大学生を対象に、現状の把握と水泳に対する意識、安全水泳に対する認識を調査し、実践への基礎資料とした。

↓

結果から、これからの学校水泳教育はどうあるべきなのか新学習指導要領の視点を取り入れて考察していく。

研究方法

- ・場所 鳴門教育大学 講義
- ・対象 H28 初等体育(現3年生) 58名
H29 初等体育(現2年生) 61名
H29 健康・スポーツ I (現1年生) 128名

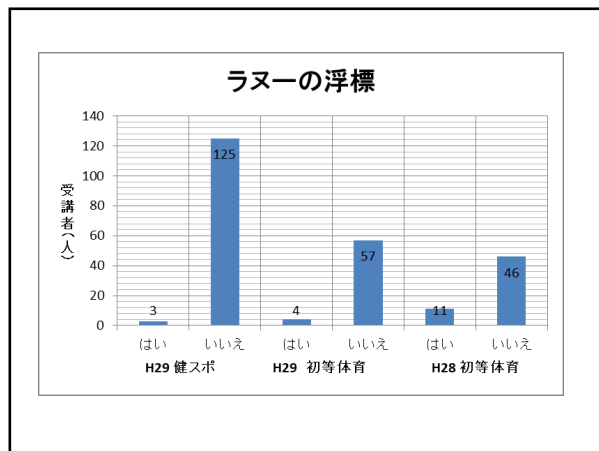
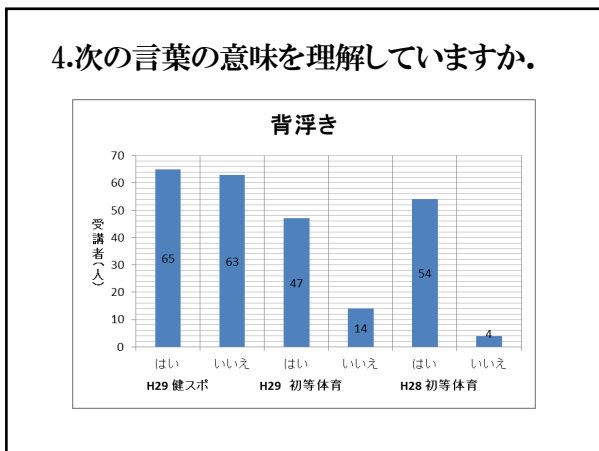
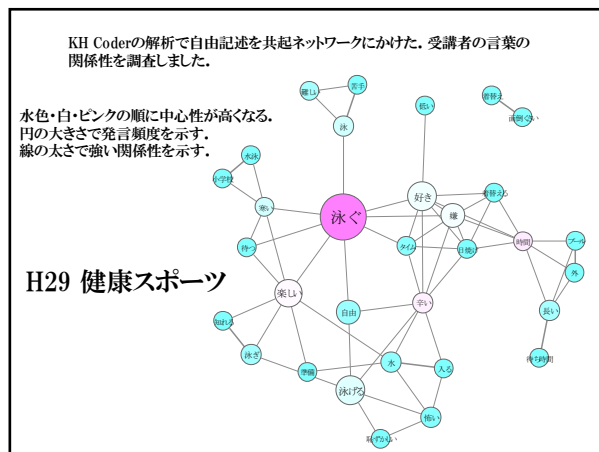
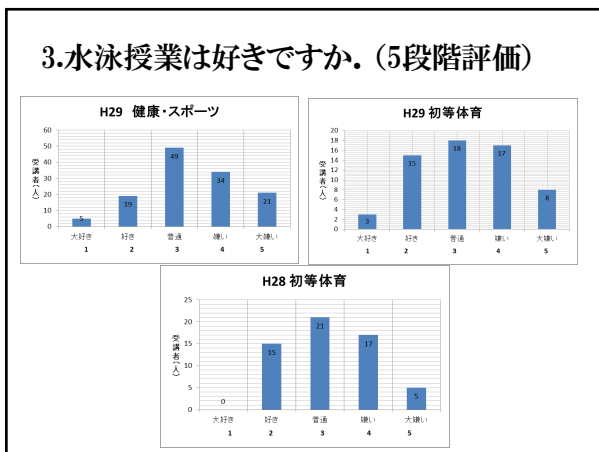
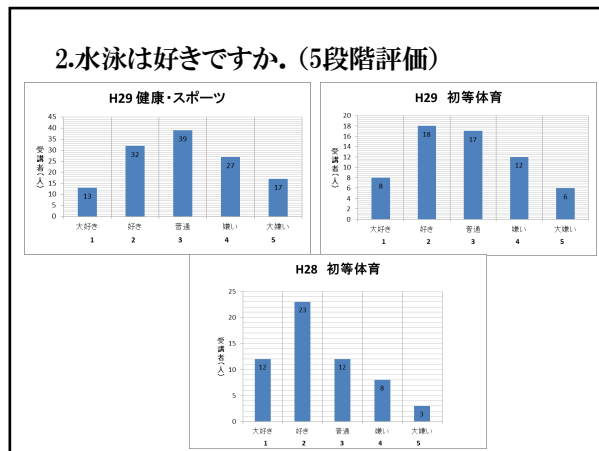
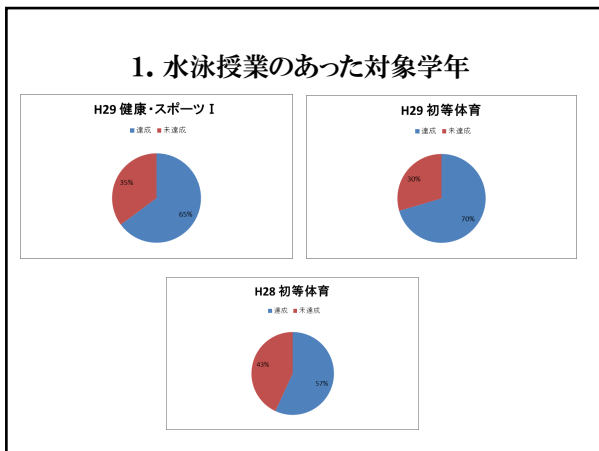
アンケート内容

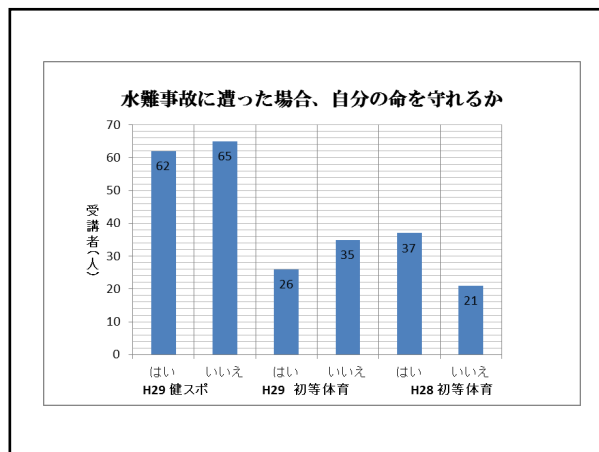
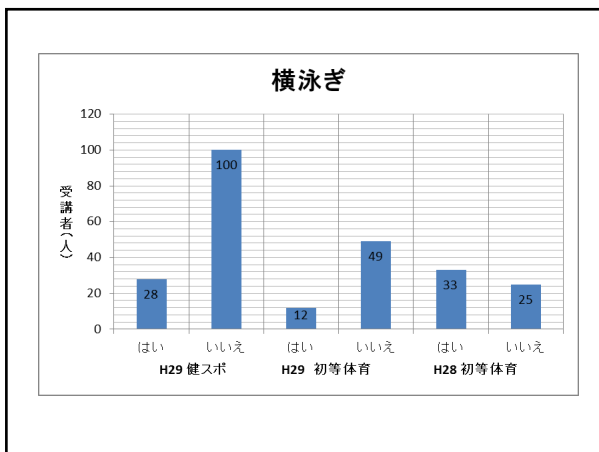
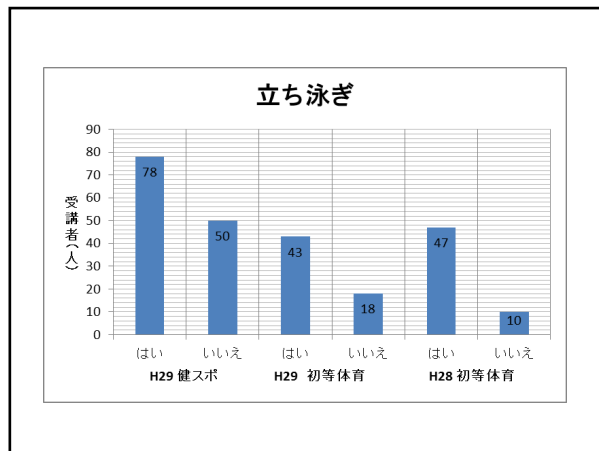
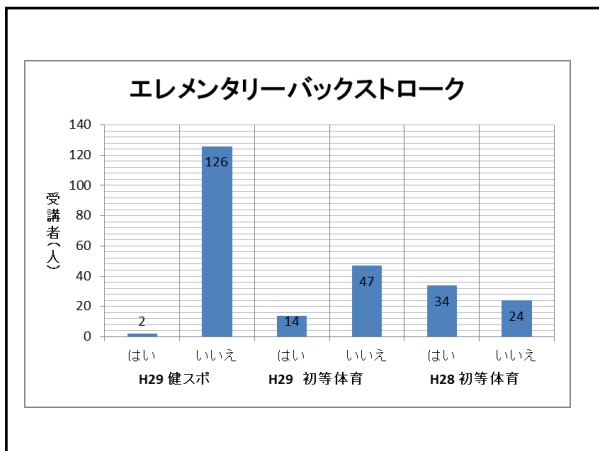
- 学校での水泳授業についてお聞きします。
 - 水泳授業があった学年を○で囲んでください。
小学校 (1年 ・ 2年 ・ 3年 ・ 4年 ・ 5年 ・ 6年)
中学校 (1年 ・ 2年 ・ 3年)
高校 (1年 ・ 2年 ・ 3年)
大学 (1年 ・ 2年 ・ 3年 ・ 4年)
 - 学校の水泳授業以外に際してお聞きします。どのような時に水泳経験がありますか。該当するものを○で囲んでください。
① スイミングスクール ②部活動 ③プールや海での遊び ④その他 ()
- 水泳の意識についてお聞きします。
 - 水泳は好きですか? 好きかどうか 5段階評価で当てはまるところに○をしてください。
(1) 大好き ・ 2好き ・ 3普通 ・ 4嫌い ・ 5大嫌い
その理由を教えてください。(自由記述)
 - 水泳授業は好きですか? 5段階評価で当てはまるところに○をしてください。
(1) 大好き ・ 2好き ・ 3普通 ・ 4嫌い ・ 5大嫌い
その理由を教えてください。(自由記述)
- これからの質問は水泳授業に関して指導要領の立場からお答えください。
 - 次の言葉の意味を理解していますか。
- 指導者 (11) ・ (11) (2)
- フォロー指導 (11) ・ (11) (2)
- 待って待て (11) ・ (11) (2)
- エキメンタリー・パートナーシップ (11) ・ (11) (2)
- 立ち泳ぎ (11) ・ (11) (2)
 - 教員として水泳授業を行う中で、安全水泳教育を行うことはできますか。 (11) ・ (11) (2)
 - 身のつかない自然水域で安全に泳ぐ自信はありますか。 (11) ・ (11) (2)
 - 今後、水泳教育などの指導講習などがある場合どのような事を学びたいですか。 (11) ・ (11) (2)

アンケート結果

1. 水泳授業のあった対象学年

義務教育9年間に注目
中学校三年生の選択授業を除く8年間ですべて授業があれば達成、なければ未達成として





考察

小学校新学習指導要領に新たに加えられた内容

- ・第1学年及び第2学年
 - (2) 水の中を移動したり、もぐったり浮いたりする簡単な遊び方を工夫するとともに、**考えたことを友達に伝えること。**
 - (3) 運動遊びに進んで取り組み、**順番やきまりを守り誰でも仲よく運動**をしたり、水遊びの心得を守って安全に気を付けたりすること。
- ・第3学年及び第4学年
 - (2) 自己の能力に適した課題を見付け、水の中の動きを身に付けるための活動を工夫するとともに、**考えたことを友達に伝えること。**
 - (3) 運動遊びに進んで取り組み、**順番やきまりを守り誰でも仲よく運動**をしたり、水遊びの心得を守って安全に気を付けたりすること。
- ・第5学年及び第6学年
 - ウ**安全確保につながる運動**では、背浮きや浮き沈みをしながら続けて長く浮くこと。
 - (2) 自己の能力に適した課題の解決の仕方や記録への挑戦の仕方を工夫するとともに、**自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。**
 - (3) **仲間の考えや取組を認める**

中学校新学習指導要領

- ・第1学年及び第2学年
 - (2) 泳法などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて**運動の取り組み 方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えること。**
- ・第3学年
 - (3) **水 泳の事故防止に関する心得を遵守する**など健康・安全を確保すること。

これまで安全水泳という概念は希薄的な立場にあった。しかし、新学習指導要領の告示に新しく「安全確保につながる運動」が加わった。このことで安全水泳の概念がこれまでより一層重要になってくると考える。体育授業での二極化傾向やレベルの違いも新学習指導要領の自身の考えを他者や友達に伝える能力も求められる。



感覚で行うだけでなく、どうしたら相手に上手く伝えられるのか考える機会が増える。その際に知識も身に付けておかなければならない。

安全水泳は、自分の身を守るための知識、技術だけではなく、同時に周囲の安全や友達に迫る危険に目を向けることができる能力を養う。

今後、子どもたちが生涯スポーツとして水泳と関わる際に、競泳だけではなく他の種目やマリンスポーツへ関心を高め、安全に配慮する心得を身に付けておく。



安全水泳教育の達成